

Japan.

資料3

# 包括的データ戦略の整理

令和5年2月28日 データ戦略推進ワーキンググループ  
(第6回)

## Digital Agency

## データ戦略の目指す姿

- 来るべきデータドリブンでAIを活用した社会において、世界と協調し、競争できる基盤を整備。
- 多様で質が高く十分な量のデータが簡単かつ安全に信頼できる環境を実現。
  - ストレスなく活動ができ、継続的に改善し、スタートアップしやすい環境。
- 戦略に基づき、データ整備から活用までの一貫した流れを実現する。
  - データスペースという国境を越えた大きな概念で考える。

## 見直しと推進のステップ

- 現在の包括的データ戦略は、2021年6月に重点計画の別紙として閣議決定。
- 2023年の重点計画の再整理に伴い、包括的データ戦略も重点計画に統合。AIや成長戦略との関係踏まえ構成について検討中。

### 改めて現状を整理する

- データ資産を洗い出す
- 残課題を整理する
- 世界との差分を認識する



### 土台を固める

- GIFを行政内に展開する
- ベース・レジストリ等のデータ供給の加速する
- 基本ルールを整備する



### データスペースに展開する

- グローバルを見すえたゲーム展開をする
- 取り組みを加速するためのデータハブを整備する
- AI活用も含め産業政策として考える



### 勝ちに行く

- ルール、技術を促進する
- 競争力のあるエリアで集中的取り組み

# 包括的データ戦略の構成案(イメージ)

## 現行の包括的データ戦略

### I 総論

- 1.背景
- 2.包括的データ戦略の基本的な考え方

### II 各論

- 1.トラスト(=第5層:ルール分野の重点項目)
- 2.プラットフォーム(=第3層/4層:データ連携基盤と利活用環境の重点項目)
- 3.データ取引市場とPDS・情報銀行(=第4層:利活用環境の重点項目)
- 4.基盤となるデータの整備(=第2層:データ整備の重点項目)
- 5.デジタルインフラの整備・拡充(=第1層:インフラ)

### III 横断的に取り組む項目

- 1.人材・組織
- 2.サイバーセキュリティの確保

### IV 国際連携

- 1.概況
- 2.DFFTの意義
- 3.これまでの取組と今後の方向性

### Appendix

- ・包括的データ戦略のタイムライン
- ・略語集

## 現行戦略で記述が不足している内容 例

- ・ 行政データ全体像
- ・ AIやデータ利活用
- ・ 運用やデータマネジメント体制

## 加筆が必要な環境変化、技術変化 例

- ・ データスペース等、産業政策的な変化が加速
- ・ デジタル社会の経済安全保障の議論が加速
- ・ 各国での法律や体制の整備
- ・ インタオペラビリティのさらなる重視
- ・ ビルディング・ブロック群の整備
- ・ デジタルツイン等、地理空間情報活用の加速
- ・ データマチュリティ、品質へのニーズ拡大
- ・ DFFTの推進

ポイントを絞り、重点計画の他分野と整合を持って、デジタル政策全体でシナジーを持つように整理